

# 平成 26 年度 加茂・南蒲 図工・美術部 活動報告

部長 大谷 美佐恵

## 1 研究主題

「子どもの絵の良さを見つけ、伸ばす指導の在り方」

## 2 研究の概要

5月 2日（金） 事業計画立案・研究テーマ決定

8月 26日（火） 研修会

## 3 研究の実際

### ① 主題設定の理由

「**子ども**の絵の良さの見つけ方が分からない。」「良さを伸ばすためにどう指導したらよいか**悩む**。」という部員の**声を多数聞く**。そこで、**過去に入賞した絵（？）**を鑑賞する**機会を設け**、子どもの絵の良さの見つけ方や指導の在り方について研修したいと考えた。

### ② 研修日時・場所

8月 26日（火） 14時 20分～16時 30分

加茂市立加茂中学校 美術室

### ③ 講師

長岡市立新町小学校 教頭 永井毅人先生



### ④ 研修内容

過去 3 年間の中越教育美術展特別賞の作品をお借りし、同美術展で長年審査にあたっている永井先生から、子どもの絵の見方について**ご指導**いただいた。

「この絵の良さをどう見るか。」ということテーマに、実際に絵を見ながら**講師も参加者も一緒になってディスカッション**した。たくさんの描き込みがあり、一見しただけでは何が描いてあるか判然としない絵、大胆な筆使いで背景を原色で塗った絵、色鉛筆で塗った中学年の絵、間違えた下描きの鉛筆の線がはっきりと残る絵など、賛否が分かれそうな絵を中心に、その絵がどのように子どもの思いを表現しているかということについて話し合った。

**講師**先生からいわゆる「きれいな絵」に価値があるのではなく、「自分の表現したいことをはっきりもち、自分なりの表現で表そうとすること」に価値があるということをご**指導**いただいた。**実際に**、特別賞の作品は画一的な指導を排した個性的な作品ばかりで、子どもの思いと真摯に向き合う指導の中で生まれた作品であることを、参加者全員で感じとることができた。

## 4 成果と課題

子どもに絵を描かせることは、「絵」という手段を通して自分を表現させることである。自分の心に残ったことや美しいと思うことを他に伝えようとするのが最も大切なことである。したがって絵の指導をする際は、技術的に優れた絵をめざすのではなく、絵に表わそうとした子どもの思いをくみ取り伸ばすことや、思いを表現するための手立てを教えることが重要であることを理解することができた。一斉指導の中で、一人ひとりの思いをくみ取り個性を伸ばしていくためには、どのように授業を進めていけばよいのかを**考え**、実践していくことが今後の課題であると**受け止めている**。